



【校訓】

風に向かって立つ

今を受け入れ、今を越える～目標をもつことの大切さ

校長 上村 勉

今月、3年部活動生にとって最後の大会である地区中体連総体が終了しました。県大会出場に駒を進めた人、3年間の部活動にピリオドを迎えた人、それぞれいると思います。これから大切なことは、部活動で学んだことをどのように生かしていくかです。みなさんの行動に期待します。

さて、1学期も終盤を迎えました。月末30日はH3ロケット3号機の打ち上げが予定されており、1か月後には4年に一度のスポーツの祭典パリオリンピック・パラリンピックが開催されます。それぞれに取り組んできたことが実を結ぶことを期待して、とても楽しみにしています。

時に、みなさんは、何かを目指して頑張っている時に、途中でうまくいかないでダメになってしまった経験はありませんか。一生懸命取り組んでいたことが何かの原因でダメになってしま…。そんな時にその壁を乗り越えて未来志向で勇気をくれる言葉を紹介します。日本を代表するアスリートの土田和歌子選手の言葉です。

「今を受け入れ、今を越える」

土田選手は、高校時代の交通事故が原因で脊髄損傷となり、車椅子生活になりました。その後、アイスビレッジスピードスケートで活躍した後、陸上競技に転向し、2001年の大分国際車椅子マラソンで世界最高記録を樹立しました。1998年の長野パラリンピックでの金メダルに続き、2004年のアテネパラリンピックでも金メダルを獲得しました。

2012年のロンドンパラリンピックにも出場し、日本選手団の主将を務め、2013年の大分国際車椅子マラソンで世界記録を更新したすごい方です。

土田選手は、ハードな練習をこなし、これまでの大会以上に深く熱い思いで参加した2008年の北京パラリンピックの女子5000メートルに出場しましたが、レース中の大クラッシュに巻き込まれるという大きなアクシデントに見舞われてしまったのです。病院での診断結果は、選手生命さえ危ぶまれるようなものでした。

しかし、その後、「現状を受け入れなくては前に進めない」と考え、現役続行を決意し、事故から3か月後に練習を再開し、2011年の世界選手権・車椅子マラソンで金メダルを獲得、ロンドンパラリンピックに出場することができました。土田選手は著書『今を受け入れ、今を越える』の中で次のように書いています。

「試練は苦しみではなく人生を好転させるもの」「現状を受け入れなくては前に進めない」「目標があれば、すべて乗り越えられる」

みなさんがこれから生きていく中では、自分が夢や目標としていたことが、必ずしもすべて思い描いたとおりにうまくいかない方が多いかもしれません。例えば、中学校卒業時には多くの生徒が高校受験をしますが、第一志望に合格したいと思って一生懸命に頑張っていたとしても、他校の生徒を含めて受験生全員が頑張りますし、倍率もあります。そのためには残念ながら合格の夢が叶わないこともあります。それは、大学進学や就職でも同じです。また、入試や就職試験だけでなく、一生懸命に取り組んでいた学習や仕事や目標としていた活動などが途中でダメになってしまうこともあると思います。

そんな時は、土田和歌子選手の「今を受け入れ、今を越える」この言葉を思い出して、未来に向かって希望をもって頑張ってみましょう。1学期もあと3週間ですよ！



内面見

